



蚊にとっては地獄の存在？

【別府】別府市野田の血の池地獄は、オリジナルの土産品「血の池地獄 蚊取り線香」の販売を始めた。「血を吸う蚊にとって、蚊取り線香は地獄のような存在」との着想から生まれた商品。施設内の売店で購入できる。

別府市野田の血の池地獄が販売を始めた「血の池地獄 蚊取り線香」



オリジナル「蚊取り線香」

別府 血の池地獄、土産品販売

同施設が2022年から進める「熱血キャンペーン」の一環。ローズの香りがする渦巻き形で1個当たり約7時間使える。1箱10個入りで税込880円。

商品のアイデアは、県内を拠点に活動するクリエイティブディレクター広崎竜太さん(46)の顔写真Ⅱが主導した。パッケージのデザインは、赤い「熱泥」が吹き出して赤く染まった同施設の池の水面をイメージ。側面に鬼のイラストを載せた。



た。

外国人観光客にも分かるよう、商品名に英語表記も添えている。

2万箱を用意。売り上げの一部は、蚊が媒介する感染症「マラリア」の撲滅を願い、東京のNPO法人に寄付する。

広崎さんは「血の池地獄だけでなく別府観光のPRにもつなげ、泉都で定番の土産品になればと願っている。ふるさと納税の返礼品としても登録を目指したい」と話した。

(内田杏美)



〔問①〕 別府市の血の池地獄が販売しているオリジナルのお土産品はなんですか。

〔問②〕 その商品は1個で約何時間使用できますか。

〔問③〕 商品のパッケージのデザインはどんなイメージですか。

〔問④〕 商品のアイデアを考えたクリエイティブディレクターの広崎さんは「血の池地獄だけでなく別府観光のPRにもつなげたい」と話しています。
大分県のPRになるような商品を考えてみよう。